



フィンランドと和歌山とのつながり

出版社立ち上げ後、2冊目の絵本出版に向けて取り組んでいるKORVAPUUSTI(コルバプースティ)岩城さんには、もうひとつ実現に向けて走り始めていることがあります。それは、「フィンランドと和歌山をつなげる」取り組みです。フィンランド在住のテキスタイルデザイナー・島塚絵里さんと共に、テキスタイルの生地を和歌山の工場にて生産したり、フィンランドの生地を輸入し、和歌山の縫製技術を用いて商品化をするという2つの取り組みに挑戦しています。また、WEB ショップの枠を超え、和歌浦に実店舗を構える計画も。「少しずつ、和歌山とフィンランドを繋げていきたい」岩城さんの可能性は、さまざまな「つながり」を通じてこれからも広がっていきます。



3
2021.7.1 発行
TAKE FREE

和歌山のちいさな出版社

フィンランド旅行から
始まった和歌山とのつながり



関連資料ジャンルのご案内

2F

料理 旅行 住まいと暮らし 美容・健康
ファッション スポーツ・アウトドア 趣味実用
音楽 ビジネス IT ティーンズ 文学
新聞・雑誌 和歌山ことはじめ 有吉佐和子文庫

3F

総記 哲学・宗教 歴史 社会科学
自然科学 医学・薬学 技術・工学
産業 芸術 言語 郷土資料
参考図書 移民資料室

4F

児童書

編集後記

和歌山からフィンランドのことを発信している方がいると聞き、遠く離れた海外との接点や動機にわくわくしながら取材を行いました。自身が好きと感じたものを通して、ビジネスの領域をどんどん広げていく岩城さんは、パワフルであると同時に、「人やものとの繋がりを大切にしたい」「チャンスをもつ力」がある方だと感じました。そこには当然うまく進まないことや予期せぬこともあったと思いますが、環境の変化の波に上手く乗って、変化を楽しむその姿勢はとてもステキだと思います。和 the を通して、自分の「好き」を具現化したい方や、新しいビジネスを始めようとお考えの方、環境の変化に迷っている方などの背中を押し、勇気を持っていただけるようなきっかけになればと願っています。

和歌山市民図書館

WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

〒640-8202 和歌山県和歌山市屏風丁17番地

TEL: 073-432-0010

開館時間: 9:00~21:00

図書館の詳細情報はこちらから



ホームページ



Instagram



facebook

和歌山市民図書館
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

取材協力: KORVAPUUSTI (コルバプースティ) 岩城真理さん

きっかけは フィンランド旅行

フィンランドのヘルシンキを舞台にした映画「かもめ食堂」がきっかけで、休暇を取ってフィンランドへ旅行に出かけた KORVAPUUSTI (コルバプースティ) 岩城さん。訪れた地で強く感じたことは、その自然の美しさで、何度も訪れたくなるような落ち着いた時間の流れだったそうです。このフィンランドの持つ「豊かさ」をいつか日本の皆さんに伝えていきたい。ここから、岩城さんとフィンランドとのつながりが始まります。

Wakayama meets Finland.

和歌山市で北欧食器のWEB ショップや絵本の出版社を営む、KORVAPUUSTI

フィンランドの豊かさを 和歌山の人へ伝える

※KORVAPUUSTI (コルバプースティ) … フィンランド語で「シナモンロール」の意味



食器ブランドの デザイナーとの交流が 広げた可能性の入り口

フィンランドを何度も訪れる中で、以前から訪れたいと思っていた食器メーカーの工場見学へ。フィンランドの自然をモチーフにした食器を「暮らしの提案」として広めたい、そんな気持ちを実現するために独学でWEB ショップを立ち上げました。デザイナーとの出会いを通して「ものづくり」を間近で見ることができ、新たなつながりの可能性が広がった瞬間でした。

コルバプースティ
KORVAPUUSTI 岩城さんがフィンランドと和歌山との接点を開拓!

フィンランドの豊かさ発見
フィンランドの雰囲気「好き」

フィンランドのモノを届ける
WEB ショップを立ち上げフィンランド
雑貨の販売

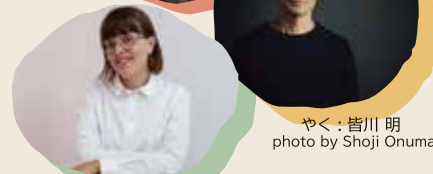
フィンランドを文字に乗せて
届ける
絵本の出版社の立ち上げ



フィンランドの絵本出版社
Etana Editions
エタナ エディションズ

アーティストとの 出会いが絵本につながる

ヴィンテージ食器の買い付けを行う中で、現地のアーティスト作品にも触れたいと思うようになった岩城さん。ある日、フィンランドで見かけたポスターのデザインに魅了され、そのアーティストである Hanna Konola (ハンナ・コノラ) さんにアポイントをとります。そのポスターには、フィンランドの自然が表現されていました。Hanna さんと交流を深める中で、「風」をテーマにした絵本を出版するというお話を伺います。その美しい絵本に希望を感じ、この作品を日本でも紹介したいと決意しました。そこからすぐにフィンランドの版元である Etana Editions (エタナエディションズ) を訪問します。アーティストとの「つながり」が絵本を取り扱うきっかけとなりました。



さく：Hanna Konola
ハンナ・コノラ

やく：皆川 明
photo by Shoji Onuma

作るだけではなく流通させること

当初、この絵本をフィンランド語版のまま日本で販売し始めました。日本語の直訳を作り、そのプリントを絵本と一緒にお渡しするという活動を2年ほど実施します。その中で、やはりもっと多くの人に親しんでいただけるよう、日本語版を出したいという想いが強くなりました。絵本の魅力を最後まで自分で届けたいと考え、小さな出版社を自ら立ち上げます。日本語版の訳は、フィンランドとの縁がとても深いファッションブランドのミナ・ペルホネンの皆川明さんにホームページより直接依頼。「一人では出版までに漕ぎつくことはできなかった」と、さまざまなつながりを通して「TUULENVUOSI (日本版「風と出会う日々のこと）」が完成しました。

『風と出会う日々のこと』2020年12月出版
私たちは風を見ることはできませんが、その動きや音を暮らしの中で感じることができます。この絵本は1年間の風が織りなす物語であり、私たちの日々の物語です。